

## 企業ニュース カネカ

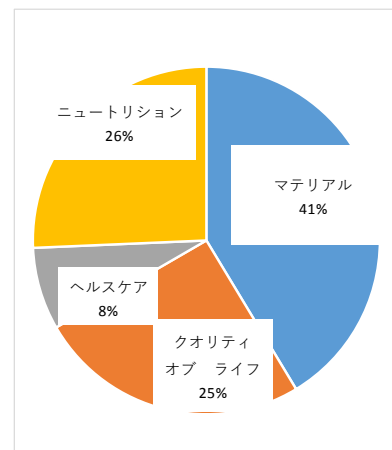
(東証1部:4118) <http://www.kaneka.co.jp>

作成者:兵藤三郎

### 様々な事業領域を持つ中堅化学メーカー

1949年、鐘淵紡績（後のカネボウ）の企業再建整備計画の認可に基づき、繊維部門以外の全事業を譲り受け、鐘淵化学工業として設立。2004年、現在の社名に変更した。化成品をはじめとし、太陽電池、有機EL照明、乳製品・食用油脂、医療関連製品など様々な事業分野へ製品を提供している。素材を提供するだけでなく社会的な問題を解決するソリューションを提供する会社への変身を目指し、下記の4事業ドメイン（Solutions Unit）で事業展開している。①マテリアル（モビリティの軽量化、燃費向上などに向けた素材の提供など）、②クオリティ オブ ライフ（省エネ住宅ソリューションの提供など）、③ヘルスケア（先端医療分野への素材・製品提供など）、④ニュートリション（健康と豊かな食に貢献など）。

◇19.3期売上高構成比



(出所) カネカ資料よりCAM作成

### 「PHBH」、 「カネカロン」などが業績をけん引

19.3期の連結業績は売上高が6,210億円、前期比4%増、営業利益が360億円、同2%減。業績は総じて堅調に推移したものの、海外の塩ビ系特殊樹脂低迷などの影響を受けたマテリアルや、国内の製菓・製パン市場低迷や天候不順の影響を受けたニュートリションの減益が大きく影響した。19年2月に下方修正した業績予想を営業利益で10億円下回り着地。

20.3期連結業績の会社計画は、売上高が6,500億円、前期比5%増、営業利益が400億円、同11%増。4事業ドメイン全てで増収増益を見込む。世界的な使い捨てプラスチックの規制強化の中注目の高まる生分解性ポリマー「PHBH」、アフリカ市場で活況を取り戻した頭髮エクステンション用素材「カネカロン」、連結子会社化したスペイン乳酸菌会社（A B - B i o t i c s）の米国におけるサプリメント素材拡販などが業績のけん引役として期待できよう。「PHBH」はカネカが開発した100%植物由来のバイオポリマー。「セブンカフェ」用のストロー素材（2019年秋導入予定）として採用、資生堂とは化粧品用容器の開発を推進している。

### [株価動向・投資判断]

環境関連銘柄として注目したい。業績未達で足元の株価は年初来安値水準にあり、P E Rも10倍台と割安感もある。今期業績の回復に伴い株価の反転が期待できる銘柄であろう。

<4118 カネカ 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	596,142 ( 9)	36,888 ( 11)	32,775 ( 20)	21,571 ( 5)	65.7	18.00
19.3	621,043 ( 4)	36,041 ( ▲ 2)	31,268 ( ▲ 5)	22,238 ( 3)	339.2	記64.00
20.3 予	650,000 ( 5)	40,000 ( 11)	35,000 ( 12)	23,000 ( 3)	352.6	100.00

(注)18年10月1日付で普通株式5株に付き1株の割合で株式併合を実施。



[主要株価指標] (売買単位:100株)	
株価(2019/5/20)	3,825 円
年初来高値(高値日)	4,535 円(19/4/17)
同 安値(安値日)	3,790 円(19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	10.8 倍
1株株主資本(PBR算出用)	5,166.9 円
P B R	0.74 倍
予想配当利回り	2.61 %
(1株当たり配当金100.00円)	
R O E (19.3)	6.7 %
発行済み株式数	6,800 万株